

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日：令和5年10月20日

公表:令和6年3月1日

事業所名：ひわまりきつず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	8	3室を分けて活用している。	利用定員が多すぎる。 人数に対して部屋の広さが狭いと感じる時がある。 →利用者の特性や人数に合わせて部屋の使い方を検討し、工夫していきます。
	2	職員の配置数は適切である	15	8		職員、スタッフ数が足りない。 日によってスタッフの数が違う。 子供の成長に合わせてスタッフを増やさないといけない。 →職員間でコミュニケーションをとりながら、配置数が適切になるように努めます。また、職員採用に努力します。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	14	室内は段差が少ないため移動がしやすい。	スロープがない。 出来ている所とそうでない所がある。 職員が安全配慮している。 玄関入口のバリアフリー化整備。 →できる限りの設備をし、安全に努めます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	19	3	しっかりと目標設定できている。	引き続き、職員間でコミュニケーションをとりながら情報共有していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	23	0	保護者の意見を反映できている。	引き続き意見の反映、改善ができるよう努めていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	7	ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	6		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	20	1		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	21	0	本人のニーズを踏まえた計画育成ができています。	引き続き個々のニーズにあった計画、支援を実施していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	18	2	ツールより日常の観察記録に力を入れている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	20	2		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	22	1		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	18	5		通年で同じ課題になっている。 →長期休暇の課題も決め、支援できるように努めていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	22	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	21	0		

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	12	時間のある時を活用している。	引き続き、職員間でコミュニケーションをとりながら情報共有していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	23	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	20	1		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	20	2		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	18	1		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	20	1		学校からの行事予定表や用紙などをもらえるのが遅く、送迎表を組むのに困るときがある。 →連絡、共有漏れ等がなくなるよう、積極的に学校と連携を図ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	14	4	保護者から情報を得ている。	主治医まで連絡は取れないが家族とは連絡を取れる。 受け入れなし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	17	2	やや不十分だが行い、努力している。	関係機関との連携も図っていけるように努めていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	14	3	連絡帳を使用し共有している。 相談員への情報共有を行い努めている。	引き続き、関係機関との連携も図っていけるように努めていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	15	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	12		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	10		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	18	2		
保護者への説明	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	11	7	不十分だが送迎時を主に 行っている。	保護者の方々と細やかな情報、意見交換を実施し 支援を行えるよう努めていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	18	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	19	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	11		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	20	0		

明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20	0		
	35	個人情報に十分注意している	20	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	20	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	12		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	21	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	22	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	22	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	22	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	18	3		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	22	1	都度共有し、再発しないよう会議している。	引き続き情報共有、会議を実施し再発防止に努めます。